

**○記者会見要旨は以下のとおりです。**

- 1 先週 12/16（金）に行われた日本ジオパーク委員会における審査の結果、南アルプスジオパークの再認定が決定しました。
- 2 前回 2020 年の審査で条件付き再認定となり、正式な認定が見送られました。この際は、認定条件があまりにも厳しくとらえられ、構成自治体（伊那市・富士見町・大鹿村・飯田市）間ではジオパークをやめることも検討しました。その後、2022 年 2 月には富士見町は脱退するに至りました。
- 3 しかし、市議会を始め、現地ガイド等関係者、遠山郷の住民などの多くの皆さんから、「やめないでほしい」という真摯な意見を伺いました。このことから、脱退するのではなくジオパークを前に進めていこうという方向に立て直しました。
- 4 特に問題視された「事務局体制の強化」については、伊那市に多くの負担を強いてきた体制を反省し、大鹿・飯田も事務を負担するとともに、年数回しか開催されてこなかった事務局会議、幹事会を頻繁に開催し、事務局・幹事の意思疎通を図ってきました。
- 5 南アルプスの大地・自然と、その麓遠山郷で培われた生活・文化は、紛れもなく当市のかげがえのない宝です。この宝は、人の活動があってこそ、価値が守られて活かされていく。住民のみなさんの意思や考えを尊重し、一緒にジオパークの活動を進めていけるよう、行政として最大限支援をしていきたいと考えます。
- 6 今後も日本ジオパークネットワークの一員として、全国の皆さんと切磋琢磨しながら、来年からは 15 年目となるジオパークの活動を継続・発展させていきたいと思えます。

**○今回の審査の経過は以下のとおりです。**

1 今回の審査の経過

審査機関： 日本ジオパーク委員会

審査経過：

2022 年 9 月 プログレスレポートを日本ジオパーク委員会に提出

11 月 14 日～16 日 現地調査（11/14 高遠、15 長谷～大鹿、16 上村）

12 月 16 日 第 47 回日本ジオパーク委員会において再認定が決定

2 南アルプス（中央構造線エリア）ジオパークの認定の経過

2008 年 日本ジオパークに認定

2012 年 再認定

2016 年 再認定

2020 年 条件付き再認定（2 年間）

2021 年 構成市町村会議を経て活動継続を決定

アクションプラン（再認定審査指摘事項の改善計画）を策定

2022 年 再認定

## ○再認定が決まった要因として、以下の内容があげられます。

(前) 事務局を伊那市だけで担っていた。

(後) 大幅に事務分担を見直し、飯田市、大鹿村も事務局を主体的に担う体制となった。

(前) ジオパークの推進に大事な会議や話し合いをしてこなかった。

(後) 事務局会議および幹事会を頻繁に開催し、関係者の意思疎通を図り、さまざまな意見を聞きながら推進するようになった。

(前) ジオパークで何をしていくかの具体的な実行計画がなかった。

(後) 計画策定のため、特別に作業部会を設け策定作業を進めている。

(前) 学術・教育・観光の各部会の活動が停滞していた。

(後) それぞれの組織を見直し、各部会が主体的にかつ効果的な活動ができる体制の検討・整備を行った。

(前) 分杭峠の「ゼロ磁場」という非科学的な観光に何もしてこなかった。

(後) ジオパークと直接関係のない観光資源であることが伝わるよう、看板の位置を変え、チラシの内容を変え、地球科学的に誤解がなく伝えられるよう取り組んだ。

(前) 地質的に特徴のあるはずのジオサイトに学術的な根拠の整理がなされていなかった。

(後) 学術部会で根拠を示し、サイトの整理を行った。

(前) エコパークとジオパークを整理せず、いっしょにやってきた。

(後) 整理するため、他の地域や有識者の意見を聞いてきた。いっしょにやることで地域にとって良い効果を出すため、講演会や講座も開催してきた。

## ○ジオパークの概要は以下のとおりです。

ジオパークは、「地球活動の遺産…地質や地形といった大地の成り立ち」を主な見所とする自然の中の公園です。

ユネスコの支援により 2004 年に設立された「世界ジオパークネットワーク」を中心に、世界各国で推進され、46 か国 177 地域以上の世界ジオパークが存在しています。日本では、南アルプスを含む全国 46 地域が、「日本ジオパーク」に認定されており、そのうち 9 地域（洞爺湖有珠山、糸魚川、島原半島、山陰海岸、室戸、隠岐、阿蘇、アポイ岳、伊豆半島）がユネスコ世界ジオパークとしても認定されています（2022 年 1 月現在）。

南アルプスジオパークは、南アルプスのどっしりとした山々と、伊那市高遠から飯田市南信濃にかけてまっすぐ伸びる日本最大級の断層である「中央構造線」をテーマ（エリア）とした自然の公園であり、科学教育等の場とするとともに、観光資源として活用することにより、地域の振興・活性化を図るための取り組みを行う事業となっています。